

イザヤ書44-45章8節 「名を呼ばれる神」

1A 立ち直される方 1-8

1B イスラエルの名 1-5

2B 永遠の民 6-8

2A 偶像礼拝の空しさ 9-23

1B 偶像のようになる自分 9-20

1C 人間の作ったもの 9-14

2C 火の燃料 15-20

2B 背きの罪を消し去った方 21-23

3A キュロスの名を呼ばれる方 24-8

1B 預言の成就 24-28

2B 油注ぎ 1-4

3B 唯一の神 5-8

本文

イザヤ書 44 章を開いてください。イザヤは、ずっと、神がイスラエルを贖うことを語っています。バビロンに捕らわれている彼らが、ちょうどかつての出エジプトのように、そこから贖い出されることを預言しています。主は、かつての彼らの罪を赦されています。そして、新たな働きをされています。けれども、彼らには課題がありました。それは、かつてのエジプトでの奴隷状態の時と同じように、恐れていることです。自分たちが解放されるということが、信じられませんでした。もう一つは、バビロンの神々に取り囲まれて生きていることです。ですから、主が前もって告げても、それが絵空事のように聞こえるのです。

それで主は、何度も繰り返して、ご自身が、比べることのできない大きな方、偉大な神であり、他の神々と言われているものは存在せず、ご自身だけが神なのだと宣言しておられるのです。そして、彼らを力強い手で救い出されることを約束されています。これは、偶像礼拝に取り囲まれて生きている日本の人たちが、キリストにあってイスラエルの神に救われるのと同じでしょう。いろいろな恐れが心にでてきます。けれども、自分の周囲にある神々と呼ばれているもの、自分の恐れているものは何でもないものなのだということを知り、その贖いを信じるのです。

まず、43 章 27-28 節を読みます。「²⁷あなたの最初の先祖は罪を犯し、あなたの仲保者たちはわたしに背いた。²⁸それで、わたしは聖所のつかさたちを汚し、ヤコブが聖絶されるように、イスラエルがののしられるようにした。」バビロンによってエルサレムが破壊されました。それで、ヤコブの名がなくなり、イスラエルの名がののしられるままに、主がされました。しかし、主は、バビロンで

彼らを七十年間、捕囚の民としてからは、新しいことを行われます。この、ののしられているイスラエルの名を、再び誇りをもって名乗るようにされるのです。

1A 立ち直される方 1-8

1B イスラエルの名 1-5

1[†]今、聞け。わたしのしもべヤコブ、わたしの選んだイスラエルよ。²あなたを造り、あなたを母の胎内にいるときから形造り、あなたを助ける主はこう言う。恐れるな。わたしのしもべヤコブ、わたしの選んだエシュルンよ。

主は、ご自分がイスラエルを造られ、形造られたことを強調しています。実に、母の胎にいる時に形造っています。私たちはみな、そこから生まれています。受精から始まり、その細胞が分化し、そして体の器官が徐々に形成されて、そして一個の人間になるのです。したがって、全てのことが神に拠っているのだということを私たちは悟ります。

そして、この言葉がヤコブに向けられていることに気づいてください。神の選びは、実にヤコブが母リベカの胎にいる時から生まれていました。ヤコブとエサウは双子でしたが、そこで腹の中でぶつかり合うようになっていました。リベカが主に伺うと、「二つの国が胎内にあり、兄が弟に仕える。」と言われたのです。兄エサウが弟ヤコブに仕えるようになる、つまりヤコブが選ばれた者となったのです。

そしてヤコブの名を呼び、「エシュルン」とも呼ばれています。これはイスラエルの別名ですが、「まっすぐな者」という意味です。彼らの名は今のはののしられていても、そこから立ち直ることができるという意味です。今は、ちょうど背が曲がっているようにされているが、背をまっすぐにして、誇りをもってイスラエル人だと名乗ることができるようになるという約束です。主が、自分に尊厳を取り戻してくださるということでもあります。

³ わたしは潤いのない地に水を注ぎ、乾いたところに豊かな流れを注ぎ、わたしの霊をあなたの子孫に、わたしの祝福をあなたの末裔に注ぐ。⁴ 彼らは流れのほとりの柳の木のように、青草の間に芽生える。

主は、これまでの何度となく、イスラエルの地に川を流して、回復する約束されていました。ここでは、その川の流れを造るのに、「わたしの霊をあなたの子孫に、わたしの祝福をあなたの末裔に注ぐ」と語っておられます。水は、いのちを表します。神は、物理的に川を与えてくださいますが、霊的にも、いのちを与えるために、ご自分の霊を注いでくださるのです。

これは、終わりの日、主イエスが地上に再臨されてから成就することですが、すでに、ご自身を

信じる者には、霊的ないのちはくださっています。このイザヤの預言を念頭に置かれて、以下の約束をイエスはくださいました。「ヨハ 7:38 わたしを信じる者は、聖書が言っているとおり、その人の心の奥底から、生ける水の川が流れ出るようになります。」

⁵ ある者は『私は主のもの』と言い、ある者はヤコブの名で自分を呼び、ある者は手に『主のもの』と記してイスラエルの名を名乗る。」

御霊が注がれて、彼らが、確かに主に贖われた者としての確信が取り戻されます。そしりの言葉でしかなかった、ヤコブまたイスラエルが、今は、神が愛し、選ばれ、呼ばれた時のように、自分がヤコブ、イスラエルの子なのだと自信をもって言うことができます。

2B 永遠の民 6-8

⁶ イスラエルの王である主、これを贖う方、万軍の主はこう言われる。「わたしは初めであり、わたしは終わりである。わたしのほかに神はいない。

主は、ご自身こそが創造主であり、唯一の神であること宣言しておられますが、その呼び名が、「わたしは初めであり、わたしは終わりである。わたしのほかに神はいない。」というものです。初めから終わりまでを治めている方、永遠の神です。この言葉が使われているところは、どこか知っていますね。「黙 22:13 わたしはアルファであり、オメガである。最初であり、最後である。初めであり、終わりである。」そう、イエスご自身です。

イエスが、主なる神ご自身であり、父なる神と一つであることが、新約聖書における証しです。ここにある、一つ一つの呼び名が福音書でも使われています。弟子ナタナエルは、イエスに対して「あなたは神の子です。あなたはイスラエルの王です。(ヨハネ 1:49)」と告白しました。主がお生まれになった時も、東方の博士はユダヤ人の王を拝みに来たと言われ、そして主は、「ユダヤ人の王」の罪状によって十字架で死なれました。

次に、「これを贖う方」であります。ゼカリヤがバプテスマのヨハネがエリサベツから生まれた後に、主を賛美して、この後に現れるキリストのことを、このように賛美しました。「ルカ 1:68-69 ほむべきかな、イスラエルの神、主。主はその御民を顧みて、贖いをなし、救いの角を私たちのために、しもベダビデの家に立てられた。」

そして、「万軍の主」とあります。主が捕らえられる時に、ペテロが剣を取りました。けれども、さやに収めなさいと言われました。そして、こう言われます。「マタ 26:53 それとも、わたしが父にお願ひして、十二軍団よりも多くの御使いを、今すぐわたしの配下に置いていただくことが、できないと思うのですか。」軍団とはローマの軍隊の単位で、レギオンです。一レギオンが、六千人の編成

です。ですから、7万2千もの御使いの編隊を、いや、それ以上をご自身の配下に置くことができます。この方は、万軍の主なのです。

⁷わたしが永遠の民を起こしたときから、だれが、わたしのように宣言して、これを告げることができたか。これをわたしの前で並べ立ててみよ。彼らに未来のこと、来たるべきことを告げさせてみよ。
⁸おののくな。恐れるな。わたしが、以前からあなたに聞かせ、告げてきたではないか。あなたがたはわたしの証人。わたしのほかに神があるか。ほかに岩はない。わたしは知らない。

主は、イスラエルを敢えて「永遠の民」と呼んでいます。彼らに起こることを、前もって告げられて、それによって、この方以外には神はないことを主張されているのです。ですから私は、預言について、特にイスラエルについての預言について、強調しています。主ご自身が前もって告げられることで、ご自身が唯一の神であり、永遠に生きる方であることを証しておられるからです。

2A 偶像礼拝の空しさ 9-23

主は、神々と呼ばれる偶像を拝むことが、いかに空しく、愚かであるかを詳しく語られます。これまでも、偶像の神々を造ることを皮肉っておられました。「41:7 鋳物師は金細工人を励まし、金槌で打つ者は、鉄床をたたく者を励まして、はんだ付けについて『それで良い』と言い、釘で打ち付けて動かないようにする。」9節から20節までで、完膚なきまでに、偶像礼拝の愚かしさを語ります。

1B 偶像のようになる自分 9-20

1C 人間の作ったもの 9-14

⁹偶像を造る者はみな、空しい。彼らが慕うものは何の役にも立たない。それら自身が彼らの証人だ。見ることもできず、知ることもできない。彼らはただ恥を見るだけだ。

これから、偶像を造る者の空しさと、慕うことが何の役にも立たないことを話します。木や石から像を造ることも空しいし、慕っても意味がないのです。新約聖書でも、ユダヤ人であるパウロや他の使徒たちは、異教の神々、その偶像の空しさを語っていました。例えば、ロマ 1章 21-23節です。「彼らは神を知っていながら、神を神としてあがめず、感謝もせず、かえってその思いはむなしくなり、その鈍い心は暗くなったのです。彼らは、自分たちは知者であると主張しながら愚かになり、朽ちない神の栄光を、朽ちる人間や、鳥、獣、這うものに似たかたちと替えてしまいました。」

そして、造られた偶像についてですが、その姿は、「見ることもできず、知ることもできない。」とのことです。詩篇 115篇にもこう書いてあります。「115:5-7 口があっても語れず目があっても見えない。耳があっても聞こえず鼻があっても嗅げない。手があってもさわれず足があっても歩けない。喉があっても声をたてることができない。」国々は、イスラエルの民に向かって、「おまえの神はどこにいるのか？」とあざけります。確かに、彼らの神々は目に見えるのです。口があるし、耳もあり

ます。ローマ時代、キリスト者たちは無神論者と呼ばれました。なぜなら、彼らにとって神は、目に見えるものだったからです。目に見えない神というのが考えられなかったのです。

けれども、目に見えないとも、私たちは見てくださいている方です。耳は見えなくとも、私たちの祈りを聞かれる方です。口は見えなくとも、語ってくださいます。しかし、その逆はないのです。偶像は目があっても、私たちを見ていません。耳があっても、祈りは聞いていません。ただの木や石、金や銀です。口があっても、語ることはありません。

¹⁰ だれが神を造り、偶像を鑄たのか。何の役にも立たないものを。

まず主は、偶像を造ることに空しさを語られます。

¹¹ 見よ、その人の仲間たちはみな恥を見る。それを細工した者が人間にすぎないからだ。彼らはみな集まり、立つがよい。彼らはおののいて、ともに恥を見る。¹² 鉄で細工する者は工具を用い、炭火の上で細工し、金槌でこれを形造り、力ある腕でそれを造る。腹が減ると、力がなくなり、水を飲まないと、疲れてしまう。¹³ 木で細工する者は測り縄で測り、朱で輪郭をとり、かんなどで削り、コンパスで線を引き、人の形に造り、人間の立派な姿に仕上げ、神殿に安置する。¹⁴ 杉の木を切り、うばめ榿や榿の木を選んで、林の木の中で自分のために育てる。月桂樹を植えると、大雨がそれを生長させる。

神と呼んでいるものの舞台裏を明かしています。細工している者は人間で、疲れを覚えます。人間が細工しています。そして、材料となる木を自分で育てます。作っている者は弱さをもった人間だし、その人間から育てられて造ったものです。それに対して、まことの神は私たちの助けを必要としないどころか、眠ることもなく、まどろむこともなく、私たちを助け、支えてくださるのです。疲れることはないですね。「40:28-29 あなたは知らないのか。聞いたことがないのか。【主】は永遠の神、地の果てまで創造した方。疲れることなく、弱ることなく、その英知は測り知れない。疲れた者には力を与え、精力のない者には勢いを与えられる。」

2C 火の燃料 15-20

¹⁵ それは人間のために薪になり、人はその一部を取って暖をとり、これを燃やしてパンを焼く。また、これで神を造って拝み、これを偶像に仕立てて、これにひれ伏す。¹⁶ 半分を火に燃やし、その半分の上で肉を食べ、肉をあぶって満腹する。また、温まって、『ああ、温まった。炎が見える』と言う。¹⁷ その残りで神を造って自分の偶像とし、ひれ伏してそれを拝み、こう祈る。『私を救ってください。あなたは私の神だから』と。

同じ木は、一部は神として拝んでいます。けれども残り半分は、火に燃やしているのです。肉を

食べたり、暖を取るために燃やしている木です。

¹⁸ 彼らはよく知りもせず、理解もしない。その目はふさがれていて見ることもできず、その心が賢くなることはない。¹⁹ 彼らは考え直すこともなく、このように言う知識も英知もない。『私は、その半分を火に燃やし、その炭火の上でパンを焼き、肉をあぶって食べている。それなのに、その残りで忌み嫌うべきものを造り、木の切れ端の前にひれ伏すのか。』²⁰ 灰を食物とする者は、心が欺かれ、惑わされて、自分を救い出せず、『私の右の手に偽りはないか』とさえ言わない。

自分自身が、よく考えることができず、心と思いが暗くなっています。偶像は、目が見えず、耳が聞こえず、口がききませんが、拝む者も同じようになってしまいます。霊的に見えなくなり、聞こえなくなっているのです。これほど、なさけないこと、愚かなことはありません。

私が、イエス様を信じて、大きく目が開かれたのがこれでした。目が開かれて体全体が明るくなるような思いをしたのは、これでした。魂に叫びたくなるような喜び、歌いたくなるような喜びが湧きおきました。それまで、何か神々しいものを見れば、それが神だと教えられました。例えば、太陽。日の出に、人々はそれを拝みます。また、高くそびえる山。その山のとっぺんに鳥居があります。それらに手を合わせて、拝んでいます。しかし、私も同じことをやっけて、心が空しくなりました。思いが暗くなりました。しかし、これらは確かに神々しいですが、それはそれら自体が神だからではなく、創造主によって、その栄光を現しているからに他なりません。目に見えるものは、目に見えるものによって造られたのではなく、目に見えない方によって造られたのです。この調和が分かり、私は心の奥底から、晴れるような思いをしました。

2B 背きの罪を消し去った方 21-23

そして、その同じ神によって、私は母親の胎にいる時から形造られていたのです。イザヤは、続けて預言します。

²¹ ヤコブよ、これらのことを心に留めよ。イスラエルよ、あなたはわたしのしもべ。わたしがあなたを形造った。あなたは、わたし自身のしもべだ。イスラエルよ、あなたはわたしに忘れられることがない。

バビロンで偶像に囲まれているイスラエルの民ですが、神は人が造るのではない、神が人を造るのだということ。そして何よりも、主はヤコブを愛して、形造ってくださったのだということです。「しもべ」というと、何か窮屈に感じてしまうかもしれませんが、創造主に造られたものだと分かったことによって、どれほどそれが自由をもたらし、恵みであるかを思われます。この方に喜ばれるように生きることこそが、最善の道であることがわかるからです。この方に支えていただき、助けていただき、導かれて、信頼していれば、他のすべてのことをこの方がして下さいます。

22 わたしは、あなたの背きを雲のように、あなたの罪をかすみのように消し去った。わたしに帰れ。わたしがあなたを贖ったからだ。」

主は何度も何度も、彼らの罪を赦されたことを宣言されました。「43:25 わたし、このわたしは、わたし自身のためにあなたの背きの罪をぬぐい去り、もうあなたの罪を思い出さない。」今、ここでは、雲のように、かすみのように消し去ったことを宣言しておられます。

だからこそ、「わたしに帰れ。」と言われます。すでに罪を赦していただいたのです。その赦しを受け入れてくださいという呼びかけなのです。これが福音です。神はすでにキリストにあって、赦しと和解を用意されています。それを受け入れなさい、というのが呼びかけです。

23 天よ、喜び歌え。主がこれを成し遂げられたから。地の底よ、喜び叫べ。山々よ、喜びの歌声をあげよ。林と、そのすべての木々も。主がヤコブを贖い、イスラエルのうちに 栄光を現されたからだ。

イスラエルを神が贖われたことによって、天も地も喜び叫んでいます。歌をうたっています。主が選ばれた者たちが贖われることは、自然界が潜在的に喜びをもたらしているのです。天地創造のことを思い出してください、六日目まで主が造られて、最後の最高傑作である、神のかたちに似せて造られたのが人間です。だから、人間が神の栄光を取り戻す時にそれに連なる自然界も喜びに満ちます。事実、神の子が現れたら、被造物もその束縛から解放されるとローマ 8 章には書かれています。

3A キュロスの名を呼ばれる方 24-8

1B 預言の成就 24-28

24 あなたを贖い、あなたを母の胎内で形造った方、主はこう言われる。「わたしは万物を造った主である。わたしはひとりて天を延べ広げ、ただ、わたしだけで、地を押し広げた。

主は再び、ご自身を贖う方、母の胎内で形造られた方として宣言されます。そして、万物を造られた方です。そしてこのことを示すために、行われるのが、預言者によって前もってこれからのことを語ることです。

25 わたしは易者のしるしを打ち壊し、占い師を狂わせ、知恵ある者を退けて、その知識を愚かにする。^{26a} 主のしもべのこぼれを成就させ、使者たちの計画を成し遂げさせる。

主の語られることは、何か占いをしている人のようなあいまいなことは語られません。また学者が予測するようなことも、しばしば変わりますが、そんな不確かなものではありません。しかし人々

は、それらのものにより頼み、まことの神を知りません。そのために、そういった知識を愚かなものにするために、大胆に、ご自身のしもべを通して、ご自分の計画を前もって知らせるのです。

使徒たちは、新約聖書で福音について同じことを語りました。パウロが、コリント第一でこう言っています。「1:20-21 知恵ある者はどこにいるのですか。学者はどこにいるのですか。この世の論客はどこにいるのですか。神は、この世の知恵を愚かなものにされたではありませんか。神の知恵により、この世は自分の知恵によって神を知ることがありませんでした。それゆえ神は、宣教のことばの愚かさを通して、信じる者を救うことにされたのです。」

^{26b} エルサレムについては『人が住むようになる』と言い、ユダの町々については『町々は再建され、その廃墟はわたしが復興させる』と言う。

エルサレムについては、人々が帰還して、住む町になること。ユダ地方の町々も、再建されて、復興することです。これだけでも、想像が難しいかもしれませんが、次は想像の域を超えます。

²⁷ 淵については『干上がれ。わたしはおまえの豊かな流れを涸らす』と言う。²⁸ キュロスについては『彼はわたしの牧者。わたしの望むことをすべて成し遂げる』と言う。エルサレムについては『再建される。神殿はその基が据えられる』と言う。」

なんと、エルサレムの再建を行うのは、キュロスという人物だということです。これを聞いた人々は、何のことか分からなかったでしょう。ユダヤ人の名前ではないし、まだ生まれてもいない人ですから。そして彼を主は、牧者と言っています。国の指導者であることが分かります。そして、エルサレムの再建を成し遂げるのは、淵が干上がるようにすること、そして豊かな流れを涸らすことによってもたらされるというのです。

2B 油注ぎ 1-4

主が語られることは、もっとすごくなっています。ヤバいです。

¹ 主は、油注がれた者キュロスについて こう言われる。「わたしは彼の右手を握り、彼の前に諸国を下らせ、王たちの腰の帯を解き、彼の前に扉を開いて、その門を閉じさせないようにする。² わたしはあなたの前を進み、険しい地を平らにし、青銅の扉を打ち砕き、鉄のかんぬきをへし折る。³ わたしは秘められている財宝と、ひそかなところに隠された宝をあなたに与える。それは、わたしが主であり、あなたの名を呼ぶ者、イスラエルの神であることを あなたが知るためだ。

キュロス王を、「油注がれた者」すなわち、メシアと呼んでいるのです！ここで、諸国にキュロスがやってきて、王たちの腰の帯を解くと言っています。さらに、扉を開く、門を閉じさせないと言ってい

ます。その扉は青銅のもので、そして財宝を与えられています。

よろしいですか、これらのことが紀元前 539 年に起こって、イザヤが預言しているのは、紀元前 690 年辺りではないかと言われています。ですから、150 年前にこの出来事を預言し、キュロスが生まれる 100 年前ではないかということです。この時、バビロンが大国などころか、ペルシアの国はあったかなかったか？ぐらいの、ものでした。

ペルシアのキュロスは、メディアを倒し、吸収して、メディア・ペルシア国になりました。そして、メディア・ペルシア連合軍は、時の大国、バビロンに攻め入っていました。都バビロンは、しかし難攻不落です。ギリシア人のヘロドトスが「歴史」という書物の中で記しています。当時のバビロンの町は、高さ 90 メートル、幅 24 メートルの城壁に取り囲まれていました。城壁の上を、戦車が六列並んで走ることができということです。その周囲は 65 キロにも及びます。その真ん中をユーフラテス川が流れていました。そして、純青銅の 100 もの門があり、250 もの見張り塔がありました。だから侵入しようとしたら矢が飛んでくるのですが、地下を掘ろうとしても、その城壁は地下 11 メートルまでも深く掘られていたと言われます。食糧の備蓄は、バビロンの全住民の 20 年分はあると言われていました。包囲しても、包囲する方が疲弊して戦うことができないでしょう。

キュロスは、ユーフラテス川を迂回させることを考え付きました。支流を作って、バビロンの町に流れる部分の水かさを下げるのです。そして柵をくぐって、中に入ることができました。それが、44 章 23 節の預言、「淵については『干上がれ。わたしはおまえの豊かな流れを涸らす』と言う。」なのです！こんなに仔細に渡り、預言が成就しているのです。

しかし、その川には防波堤ならず、城壁が内部にもあります。一つの橋しか向こうに行けません。その橋の向こうは頑丈な鉄と青銅の扉があります。ところが、それがなんと開いていたのです！門番が酔いつぶれて、扉にかんぬきをしていなかったのです！それが 1-2 節に書かれています。「彼の前に扉を開いて、その門を閉じさせないようにする。」「青銅の扉を打ち砕き、鉄のかんぬきをへし折る。」

なぜ、そんな門番が酔いつぶれていたのでしょうか？それをダニエルが、克明に書き記していません。ダニエル書 5 章です。宴会の乱痴気騒ぎをしていたのが、最後の王となるベルシャツアルです。彼は何と、エルサレムの神殿から取ってきた金や銀の器でぶどう酒を飲み、自分たちのバビロンの神々を賛美しました。その時です、「5:5 ちょうどそのとき、人間の手の指が現れ、王の宮殿の塗り壁の、燭台の向こう側のところに何かを書き始めた。王は、何かを書くその手の先を見ていた。」とあります。それで、「5:6 すると、王の顔色は変わり、いろいろと思い巡らして動揺し、腰の関節はゆるみ、膝はがたがた震えた。」とあります。「王たちの腰の帯を解く」とは、彼の力を無くすという意味ですが、ベルシャツアルの場合は文字通りにも起こりました。主のしもべであるダニエルが呼

び出されて、彼に対してバビロンの治世が終わることを告げました。その夜に、ベルシャツアルは殺されました。

⁴ わたしのしもべヤコブのため、わたしが選んだイスラエルのために、わたしはあなたを、あなたの名で呼ぶ。あなたはわたしを知らないが、わたしはあなたに肩書きを与える。

驚くべきことは、キュロスは、主ご自身を知らないのです。それにもかかわらず、主は彼の名を呼び、しかも牧者、油注がれた者という肩書まで与えられました。異教徒である彼を、主はメシアのような、ユダヤ人の救いのために用いられたのです。

この出来事は、歴代誌第二の最後、またエズラ記の始めに記されています。歴代誌第二の方を読みます。「36:22-23 ペルシアの王キュロスの第一年に、エレミヤによって告げられた【主】のことばが成就するために、【主】はペルシアの王キュロスの霊を奮い立たせた。王は王国中に通達を出し、また文書にもした。ペルシアの王キュロスは言う。『天の神、【主】は、地のすべての王国を私にお与えくださった。この方が、ユダにあるエルサレムに、ご自分のために宮を建てよう私を任命された。あなたがた、だれでも主の民に属する者には、その神、【主】がともにいてくださるよう。その者は上って行くようにせよ。』」

3B 唯一の神 5-8

⁵ わたしが主である。ほかにはいない。わたしのほかに神はいない。あなたはわたしを知らないが、わたしはあなたに力を帯びさせる。⁶ それは、日の昇る方からも西からも、わたしのほかには、だれもないことを、人々が知るためだ。わたしが主である。ほかにはいない。

ユダヤ人ではなく、異教徒の王が彼らのために選ばれ、救いのわざを行うことによって、この方が全世界でただひとりの神であることを明らかにされました。

⁷ わたしは光を造り出し、闇を創造し、平和をつくり、わざわいを創造する。わたしは主、これらすべてを行う者。

ここには、キュロス王の信仰、ゾロアスター教を意識したものではないか？と思われる。ゾロアスター教は、善の神と悪の神、光と闇の二つの戦いを信じています。しかし主は、ここで光を造り出し、闇をも創造したと宣言されています。光だけが神ではなく、闇をも治めているということです。唯一の主権者であり、キュロスの信仰している神々の上におられる方なのです。

そしてこれは私たちにも慰めを与えます。どんな悪いことも、主が掌握されているということです。

⁸ 天よ、上から滴らせよ。雲よ、義を降らせよ。地よ、開け。天地が救いを実らせるように。正義とともに芽生えさせよ。わたしは主。わたしがこれを創造した。」

主は、この驚くべきわざを行われることで、天から義を降らせよと言っています。そして天地が救いを実らせよと言われます。神の義が地上に降りてきて、人々を救えと言われているのです。このことが、キリストにあって世界中に実現しています。この方において神の義が啓示され、信じる者たちに救いが及んでいます。そのことによって、神ご自身がすべての主であることを証しているのです。

今回は、異教徒の王が、ユダヤ人の救いの器として用いられる神のご計画について、文句を言うところから始まります。すべての思いを超えたところで主は事を行われることについて、私たちも挑戦を受けますね。